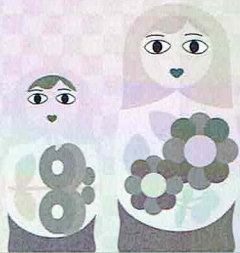




# プリローダ

第 69 号  
(NPO 第18号)

発行：2019年12月1日



【ПРИРОДА】プリローダ＝ロシア語で「自然」という意味をあらわす

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行う NPO 法人です。

## 緑の募金国際緑化交付金助成事業 2020 植林ボランティアツアー in ハバロフスク 先行応募 開始！ ブラゴヴェシチェンスク・ウラジオストク訪問

2019年のツアーでアムールスク市を訪れ、そのご縁で2020年はブラゴヴェシチェンスク市からご招待を受けました！  
そのため、今回はハバロフスクから入国してシベリア鉄道でブラゴヴェシチェンスクに向かい、国内便でウラジオストクを経由して日本に帰国するツアーとなります。

大規模植林作業は、ハバロフスク近郊のシカチアリャン地区でロシアのレッドデータ種であるオニグルミの植林を実施する予定です。

詳細は別紙チラシを参照して下さい。

日 程：2020年4月28日（火）～5月6日（水）

募集人員：15名（協会会員および初参加者優先）

募集締切：2020年1月6日（月）

費 用：23万円

（食事付き、ビザ手数料など別途費用あり、学割あり要相談）



アムールスク市において多くの市民と記念植樹（チョウセンゴヨウ）

ロシア語表記  
 Благовещенск  
 (発音は「ブラガヴェーシェンスク」)  
 北緯50度15分、東経127度32分  
 人口22.6万人  
 アムール州の州都



ブラゴヴェシチェンスクは、ハバロフスク地方の西隣、アムール州の州都で、人口は約22.6万人の都市です。

ハバロフスクから約700km西北西に位置し、シベリア鉄道の停車駅ペロゴルスクから分岐する支線の終着点となっています。アムール川とゼヤ川の合流地点であり、アムール川を挟んで僅か600~700mほどの対岸には隣国中国の黒竜江省黒河 (Heihe) 市を望むことができます。

ロシアには現在11のタイムゾーンがありますが、ハバロフスク地方とアムール州の間にも標準時の境界があり、ブラゴヴェシチェンスクの時刻は日本と同じです (ハバロフスクより1時間遅くなります)。

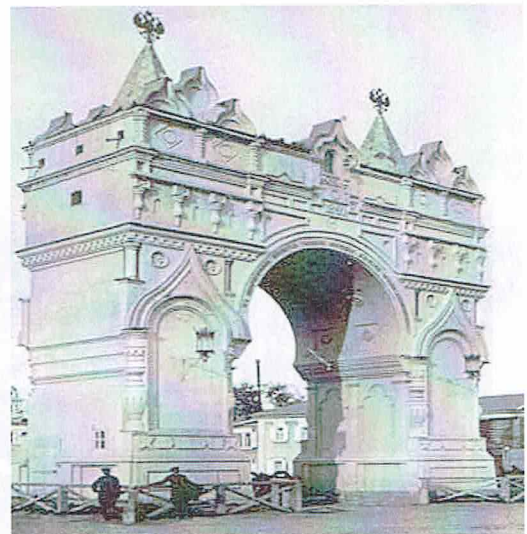
対岸の黒河市は清時代の旧称を瓊琿 (アイゲン) と言いました。アイゲンという名前に聞き覚えのある方がいらっしゃるかもしれません。日本では日米修好通商条約が結ばれて開国の嵐が始まろうとしていた1858年、アヘン戦争など欧米列強の圧力を直接受けて疲弊していた清王朝はロマノフ朝ロシアとの間で、アムール川 (中国名: 黒竜江) を新たな国境とする条約を結びました。条約が締結されたのが旧アイゲン市であり、これがアイゲン条約です。それ以前の極東の中露国境は、清の全盛期だった1689年に康熙帝とピョートル1世との間で結ばれたネルチンスク条約によって、アムール川より700kmほど北のスタノヴォイ山脈 (外興安嶺) と定められていましたから、アイゲン条約に

よる国境修正はロシアの南下政策の大きな成果でした。これ以降にハバロフスク、ウラジオストクが建設されることになり、この国境がほぼ現在の中露国境になっています。

ブラゴヴェシチェンスクはアイゲン条約締結前の1856年に、ロシア極東の領土確保のための拠点として建設されました。新しい国境を条約で決定する前にロシア人 (主にコサック部隊の家族) の定住が始まっていたわけですから、当時のアイゲン市の人々是对岸の様子に興味津々だったことでしょう。現在、ロシアの州・地方の中心都市で国境に接しているのはブラゴヴェシチェンスクだけです。

ブラゴヴェシチェンスク郊外では、国境であるアムール川に架かる橋を建設中です。2016年に兩岸から建設が始まり、今年5月に連結済、12月に完成予定、来年春の開通を予定しています。これによりブラゴヴェシチェンスクは中露間の物流の要衝、国際都市としての新しいステップを歩み始めることになります。

アムールの川岸を歩きながら、大陸極東の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



アムール川河畔に建つ凱旋門 (建設当時)。1891年にニコライ皇太子 (後のニコライ2世) が来訪したのを記念して建立。当初のものは1928年のアムール川氾濫で流されたが、2005年に同じ場所に再建されている。(写真はアムール州ウェブサイトから)

プリローダ 第69号

発行日 令和元年12月1日  
 発行 NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会  
 住所 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25  
 TEL/FAX 0422-23-5351  
 E-mail mail@mtxa.org  
 URL http://mtxa.org/  
 発行人 安藤 栄美  
 編集 田崎 桂子  
 広報委員 依田和也、長村康司、永田秀樹、木崎 剛、落合 恒、内田 央、内田 周、内田 彰  
 印刷 巧芸印刷(株)